

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	老年臨床看護Ⅱ		担当者 資格・役職等	専任教員(臨床経験13年)	
開講時期	3年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	健康障害を抱える高齢者の状況に応じた看護の理解を深める。				
授業の概要	健康障害を抱える高齢者の看護に焦点を絞って学習していく。 老年期の特徴や生活背景、人生史をふまえ、対象の生活機能の観点からアセスメントし、健康問題をとらえ健康の状態に応じた看護を、事例を通して学ぶ。				
授業計画	<p>①高齢者看護で目指すところ (講義、個人ワーク) 高齢者の看護過程の考え方 事例、アセスメント</p> <p>②③アセスメント、関連図(情報の整理、全体像) (講義、個人ワーク) ④⑤患者のプレゼンテーション、追加修正 (チーム学習、個人ワーク) 看護問題(看護の焦点)の明確化 看護計画立案</p> <p>⑤⑥看護計画プレゼンテーション (チーム学習、講義) 看護記録 SOAPについて 看護過程の全体の評価について</p> <p>⑦単位認定試験</p>				
テキスト	<p>専門分野 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 (医学書院)</p> <p>専門分野 成人看護学2「呼吸器」7「脳神経」(医学書院) など</p>				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験(50点)、成果物50点、授業参加度 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院などでの臨床経験を持つ専任教員が老年臨床看護について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	臨床看護の実際		担当者 資格・役職等	教務主任(臨床経験12年)	
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	看護の組織、管理の本質を学習するとともに、自己の課題を明確化する。				
授業の概要	<p>看護制度、看護管理の構造を理解して、保健医療施設等における看護の組織・管理の本質を学ぶ。</p> <p>今まで行った基礎看護技術をOSCE評価にて、学習者の達成度を評価し、臨床に向かう自己の課題を明らかにする。</p>				
授業計画	<p>第1回 看護マネジメントとは</p> <p>第2回 他者と共に活動すること</p> <p>第3回 組織で取り込む看護活動</p> <p>第4回 看護職の生涯学習 看護管理に必要な能力</p> <p>第5回 看護と経営 看護に関わる医療・介護制度</p> <p>第6回 (45分:授業時間1時間相当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験:看護管理に関する筆記試験(40点) ・OSCE事例の基本的知識(アセスメント等)確認(10点) <p>第7・8回 看護技術評価(OSCE) (50点)</p>				
テキスト	メディカ出版 看護管理 看護統合と実践①				
参考文献					
成績評価の方法	筆記試験(40点) OSCE(筆記 10点、OSCE 50点)、授業参加度 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ教務主任が臨床看護の実際について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義	
授業科目	医療安全		担当者 資格・役職等	看護師	
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	医療者、患者の安全を守るための具体的手法、原理、原則の理解を深める。				
授業の概要	医療の中で取り組まれている安全対策の仕組みについて理解し医療者の一員として自身と患者の安全を守るための具体的手法や原理・原則を学ぶ。				
授業計画	第1回 医療安全の動向と現状 第2回 事故発生メカニズムとヒューマンエラーの考え方 第3回 チームで取り組む安全文化の醸成 第4回 看護における医療事故と安全対策 第5回 インシデント、アクシデントレポートを通して事例からのリスクと事故防止 第6回 医療従事者の安全を脅かすリスク対策 第7回 医療・看護安全管理・看護師の法的責任 試験				
テキスト	メディカ出版 医療安全 看護の統合と実践②				
参考文献	「医療安全ワークブック」(医学書院) 「医療安全超入門」(学研)				
成績評価の方法	筆記試験、レポート 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	病院看護師（医療安全担当）が医療安全について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	災害看護		担当者 資格・役職等	看護師 教務主任（臨床経験12年）	
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	災害時の看護、被災地支援について理解を深め、救急処置等の修得を目指す。				
授業の概要	災害の種類と災害に関する看護独自の知識や技術を、体系的かつ柔軟に用いると共に他の専門分野と協力して危機的な状況における看護について学ぶ。国内外を問わず被災地の支援を学ぶ。救急時の看護に於いては基本的知識と共に救急処置の実際を学び身につける。				
授業計画	1. 災害と災害看護の概念 災害医療と看護 災害と法制度 2. 災害が人々の健康や生活に与える影響 災害各期における人々の健康問題 災害時要配慮者 3～4. 災害看護の実際 災害サイクルと看護活動 活動の場における看護（救護所・避難所における看護） 災害時の心のケア 5. トリアージ 6. 心肺蘇生（BLS,AED）演習 7. 国際看護 試験				
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学（医学書院）				
参考文献	応急手当指導者標準テキスト				
成績評価の方法	筆記試験（非常勤講師60点・教務主任40点） 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	病院看護師（DMAT隊員）及び看護として病院での臨床経験を持つ教務主任が災害看護について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	看護研究 I		担当者 資格・役職等	専任教員 (臨床経験18年)	
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間
到達目標	研究力の萌芽を目指し、看護の実践者にとってなぜ研究が大事なのか、看護の実践にとって意義がある研究とは何かを学ぶ。				
授業の概要	<p>研究力の萌芽を目指し、看護の実践者にとってなぜ研究が大事なのか、看護の実践にとって意義がある研究とは何かを学ぶ機会とする。</p> <p>授業構成は、准看護師教育課程での学習や准看護師としての看護の実践の場での体験からの疑問や問題意識を吸い上げ、文献検討して自分たちが取り組みたいことをリサーチクエスチョン(研究上の問い)として絞り込んでいく。また、学習者の身近なテーマに沿った看護研究論文などを提示し、クリティークしていくことにより情報を吟味する力(文献クリティーク力)をつけていくことや看護研究を身近なものにすることをねらいとする。</p>				
授業計画	<p>I. 研究と実践活動</p> <p>II. リサーチクエスチョン(研究上の問い)をたてる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リサーチクエスチョンを立てる 2. リサーチクエスチョンを絞り込む 3. リサーチクエスチョンをプレゼンテーションする <p>III. 文献の読み方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の構成 2. 文献クリティーク <p>IV. 研究計画書の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の書式と書き方 2. 研究計画書の作成 				
テキスト	系統看護学講座 看護研究 (医学書院)				
参考文献	看護における研究 (日本看護協会出版会)				
成績評価の方法	筆記試験 課題評価 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が看護研究について教育を行う科目				

学科	第2看護学科		授業の方法	講義・演習	
授業科目	看護研究Ⅱ		担当者 資格・役職等	教務主任（臨床経験12年）	
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間
到達目標	学内研究発表会で研究の成果を発表する。				
授業の概要	看護研究Ⅰでの研究の基礎的知識をふまえ、学生個々が研究過程を体験し、論文を作成する。 学内研究発表会での研究の成果を発表する。				
授業計画	<p>1. 研究計画書の作成 事例研究の方法と論文作成</p> <p>2. 研究の発表の仕方／研究の評価</p> <p>3～10 研究の実際 領域別実習の期間中に受け持った1事例について論文作成する (夏季休暇期間や自己研修も活用)</p> <p>11～12 看護研究発表準備</p> <p>13～14 学内看護研究発表会</p> <p>15 まとめ</p>				
テキスト	系統看護学講座 看護研究 (医学書院)				
参考文献	看護における研究 (日本看護協会出版会) はじめてでも迷わない! 看護のためのケーススタディ (医学書院) 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)				
成績評価の方法	研究論文・学内での研究発表 合計60点以上を合格とする。				
授業科目の教育内容	看護師として病院で臨床経験を持つ教務主任が看護研究について教育を行う科目				